

令和6年度第3回大船渡市学校支援活動運営委員会

(書面開催)

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 協 議

協議第1号 令和6年度大船渡市地域学校協働本部事業の総括について

協議第2号 令和7年度大船渡市地域学校協働本部事業の評価検証方針について

4 そ の 他

5 閉 会

大船渡市学校支援活動運営委員会委員名簿

任期：令和5年6月7日～令和7年3月31日

役職	氏名	区分	所属等	任用
委員長	高橋 多鶴子	学校教育関係者	日頃市小学校長	新任
副委員長	紀室 浩	学識経験者	元末崎小学校教諭	新任
委員	高橋 昭英	学校教育関係者	大船渡中学校副校長	新任
委員	梅澤 聖史	社会教育関係者	末崎小学校 PTA 会長	新任
委員	菅原 優子	家庭教育関係者	前海の星幼稚園園長	新任

協議第1号 令和6年度大船渡市地域学校協働本部事業の総括について

令和6年度大船渡市地域学校協働本部事業の総括について、大船渡市学校支援活動運営委員会設置要綱第2第2項の規定に基づき、意見を求めます。

令和7年3月14日

大船渡市学校支援活動運営委員会

委員長 高橋 多鶴子

事業名	家庭教育学級		
事業目的	学校、保護者、地域住民、行政が連携し、子どもの健全育成、家庭教育力の向上を図る。		
事業目標	① 子どもを取り巻く諸課題についての共通認識を持つ。 ② 課題解決に向けたスキルの向上を図る。		
事業概要 (実施状況)	市内小学校3校、中学校2校、こども園・保育園・幼稚園3園を対象に家庭教育学級を開催した。 (延べ7カ所、延べ参加人数743人) ※末中・末小は合同開催		
評価項目①	学校・家庭・地域等と連携したコミュニケーションの促進		
評価指標	学習内容の満足度。 「大変良かった」「良かった」と答えた人の割合	1校(園)あたりの前年度比参加人数	
評価方法	学習終了後のアンケート	実績	
目標値	80%以上	前年度比同数以上 (令和5年度実績: 49.2人)	
実績	96.9%	106.1人 (215.7%)	
達成度	◎	◎	
評価項目②	学校・家庭・地域等と連携した家庭教育にかかる知識の習得		
評価指標	学習内容の満足度。 「大変良かった」「良かった」と答えた人の割合	学習内容の家庭での取組意欲。 「そう思う」「まあまあそう思う」と答えた人の割合	学習内容の理解度。 「概ね理解できた」「要点は理解できた」と答えた人の割合
評価方法	学習終了後のアンケート	学習終了後のアンケート	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上	80%以上	80%以上
実績	96.9%	89.0%	93.9%
達成度	◎	◎	◎
成果	<p>評価項目①について、1校(園)あたりの前年度比参加人数が目標値の倍以上となったが、これは大船渡第一中学校の生徒の参加(419人)が大きい。また、アンケートにおける指標項目については、すべて目標値を上回った。</p> <p>全体としては、当初の実施対象校(園)のうち、インフルエンザ流行により中止となった園はあったが、それ以外は当初予定どおり実施することができた。</p> <p>いずれも各校(園)における家庭教育学級に対する取組意欲の高さを窺えた。</p>		
次年度の課題	<p>「家庭教育学級」の参加者から高評価を得ている一方、事業効果が参加者に限定されており、関係機関(学校・行政・地域)の連携・協力の促進に至らないことから、国が推進する「身近な地域における家庭教育支援活動」のさらなる充実を図る必要がある。</p>		

達成度 ◎: 100%以上 ○: 80%以上~100%未満 △: 50%以上~80%未満 ×: 50%未満
※ 目標値に対して

事業名	家庭教育学級（英語スクール）「英語体験教室」	
事業目的	学校、保護者、地域住民、行政が連携し、子どもの健全育成、家庭教育力の向上を図る。	
事業目標	① 子どもの創造力を育む。 ② 子どもの自主性を育む。	
事業概要 （実施状況）	保育園等における年中から小学2年生までを対象に、親子が楽しみながら英語を学ぶことによって、自己肯定感や自立心を高め、社会を生き抜く力を育むと共に、次代を担う子どもたちの国際コミュニケーション能力の育成や、国際理解の促進に資するため実施するものである。	
評価項目①	創造力の向上	
評価指標	定員に対する参加率	教室に参加したことによる変化。 「新しくやりたいことがみつかった」「アイデアを考えたり、工夫することが楽しかった」「自分のできることをふえた」と回答した子ども、保護者の割合
評価方法	実績	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上	50%以上
実績	86.3%	61.8%
達成度	◎	◎
評価項目②	自主性の向上	
評価指標	学習内容の家庭での取組意欲、また、アンケートにおいて「自分から進んで取り組むことができた」「お子様は意欲的に学習に取り組むことができた」と回答した子ども、保護者の割合	
評価方法	学習終了後のアンケート	
目標値	80%以上	
実績	92.8%	
達成度	◎	
成果	<p>今年度は、未就学児の申込者数が定員の倍以上（定員10組、申込23組）となり、一方で、小学1、2年生の申込みは定員割れ（定員10組、申込8組）となった。このことから、2回目の英語スクールは急遽、対象を未就学児のみとし、ニーズのある年代に対象を絞ったため、落選者を出すことなく、申込者全員に講座を受講する機会を提供することができた。</p> <p>学習内容については、英会話、ゲーム、歌、ダンス、おえかきなど、「動的活動」と「静的活動」を組み合わせ、さまざまなアプローチにより英語に慣れ親しむプログラムのため、子どもたちが飽きることなく60分の活動に集中する様子が窺えた。</p> <p>全2回のアンケート結果で、「とてもよかった」「よかった」と回答した子ども、保護者が100%となり、親子共に満足いただける講座となった。また、「自分から進んで取り組むことができたか」の問いに対し、「できた」「まあまあできた」と回答したのが92.8%となり、昨年度の88.7%を上回る結果となった。</p>	
次年度の課題	次年度もニーズの高い世代を中心に受講機会を提供し、英語の面白さ、楽しさを感じてもらえるよう講座の内容を工夫して参りたい。	

達成度 ◎：100%以上 ○：80%以上～100%未満 △：50%以上～80%未満 ×：50%未満
※ 目標値に対して

事業名	青少年体験学習事業	
事業目的	これからのまちづくりを支える多才な人材の育成と子供たちに多様な経験を積ませて青少年の健全育成に寄与する。	
事業目標	① 子どもの創造力を育む。 ② 子どもの自主性を育む。	
事業概要 (実施状況)	市内小中学生を対象に、学校や家庭等では得ることが難しい体験を通じ、自主性と未知への好奇心を育み、生きる力を身につけるきっかけづくりを目的にした講座を実施した。「ステンドグラス制作体験教室」、「おやこ科学教室」を開催し、多様な体験学習の機会を提供した(参加人数49人)	
評価項目①	創造力の向上	
評価指標	定員に対する参加率	参加者のうち「新しくやりたいことが見つかった」「アイデアを考えたり、工夫したりできた」「自分でできることがふえた」と回答した参加者の割合
評価方法	実績	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上	50%以上
実績	106.3%	122.5%
達成度	◎	◎
評価項目②	自主性の育成	
評価指標	「自分から進んで取り組むことができた」「お子様は意欲的に学習に取り組むことができた」と回答した児童・生徒、保護者の割合	
評価方法	学習終了後のアンケート	
目標値	80%以上	
実績	100.0%	
達成度	◎	
成果	<p>「ステンドグラス制作体験教室」は、令和5年度から新たに実施した教室であったが、好評を得たため令和6年度も引き続き実施した。参加者の創造性を育み、かつ楽しい体験が得られるよう、講師からきめ細やかな指導をいただき、満足度の高い内容となった。</p> <p>「おやこ科学教室」では、講師の説明の分かりやすさ、また実際に実験する楽しさを子どもたちが体感し、科学への興味を持ったとのアンケート回答も多く、事業目的に沿った講座を実施することができた。</p> <p>いずれも市民の学習ニーズに沿った魅力ある講座を実施することができたと考えている。</p>	
次年度の課題	<p>学習ニーズが高く人気のある事業であり、希望者全員が受講できない場合もあることから、より多くの学習機会を提供できるよう工夫していきたい。</p> <p>なお、次年度は「おやこ科学教室」を継続実施し、他にも子ども達の知的好奇心を高められるジャンルで1講座実施することとしたい。</p>	

達成度 ◎：100%以上 ○：80%以上～100%未満 △：50%以上～80%未満 ×：50%未満
※ 目標値に対して

事業名	ふるさと教育講座
事業目的	若者の郷土への誇りと愛着を醸成し、将来の地域を担う人材を育成するため、郷土の歴史、文化、自然及び産業などに関する講座を開設する。
事業目標	① 若者の郷土への誇りと愛着の醸成を図る。 ② 地域を担う人材を育成する。
事業概要 (実施状況)	市内の中学生を対象に、郷土の歴史、文化、自然、産業及びその他適切と思われるものの講話の実施。令和6年度は「大船渡市の産業」をテーマに講師を迎え、実施した。
評価項目①	若者の郷土への誇りと愛着の醸成
評価指標	「ふるさと教育講座を受講して大変良かった・良かった」、「「地元のことを深く知ることができた・知ることができた」と回答した生徒の割合
評価方法	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上
実績	98.6%
達成度	◎
評価項目②	地域を担う人材育成
評価指標	「自分の住む町や大船渡市の良いところを挙げることができ、大船渡市の良さを市外の人に説明することができる」と回答した生徒の割合
評価方法	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上
実績	52.0%
達成度	△
成果	今年度は「大船渡市の産業」をテーマに各学校のニーズ等を踏まえた特色豊かな講師を選定することができた。 アンケートの中でも「地元でも自分の全く知らないことがある」という気付きの感想が多く寄せられた。また、「大船渡の良さを広めたい」といった積極的な意見もあり、郷土の新たな魅力や価値を発見し、ふるさとへの愛着を図る機会となったと考える。
次年度の課題	次年度は「自然」をテーマに、各校の「ふるさと教育」にマッチングした内容及び講師を選定できるよう早い段階で学校側と調整を図ることとしたい。

達成度

◎ : 100%以上 ○ : 80%以上～100%未満 △ : 50%以上～80%未満 × : 50%未満
※ 目標値に対して

事業名	学校支援事業	
事業目的	学校、家庭及び地域住民相互の連携・協働を推進するため、地域コーディネーター等を配置し、学校支援活動の推進を図る。	
事業目標	地域住民が、学校や関係機関と連携した学校支援活動を推進する。	
事業概要 (実施状況)	学校より要望のあった地域コーディネーターを13校に11人配置し、生涯学習課に1人配置した。また、地域ボランティアを14校に18人配置し、学校支援を実施した。 (図書ボランティア：14校16人、金管指導ボランティア：1校2人)	
評価項目	地域コーディネーターの人材確保	
評価指標	学校支援活動を推進する地域コーディネーターを配置する	
指標取得先	年間実績	
目標値	15校	
実績	13校	
達成度	○	
評価項目	生涯学習の成果をいかした地域ボランティアの育成	
評価指標	図書支援を行う地域ボランティアの育成を図るための研修会を開催する	研修内容をボランティア活動に活用できると回答した人の割合
指標取得先	参加者の割合	受講者アンケート
目標値	75%	80%
実績	63%	100%
達成度	△	◎
成果	<p>① 地域コーディネーターの全校配置には至らなかったが、希望のあった13校に配置し、地域住民のより積極的な学校活動への参画を促した。</p> <p>② 図書支援活動地域ボランティア研修会を開催した。前年度から引き続き、大船渡市立図書館の司書を講師として依頼したが、参加者からは意欲的に質問や発言が見られた。実際の活動現場の1つである大船渡市立日頃市小学校図書室で開催することで、普段の業務を踏まえた実践的な研修を行うことができた。また、研修内容を新・旧ボランティアがどちらも学べる内容にすることで、効果的なボランティア育成を図ることができた。</p>	
次年度の課題	<p>① 単独で活動している各校の地域コーディネーターを集め、各校の実施状況や活動を実施する上での互いの悩みを話し合える機会の提供等、より円滑に業務が進められるよう工夫が必要である。</p> <p>② 学校支援ボランティア研修会において、ボランティアだけでなく担当教諭の参加の呼びかけや、意見を仰ぐことで、学校支援における、学校・地域の連携強化を図る。</p> <p>③ 地域コーディネーター同士の交流を図ることで、市内の地域学校協働活動の推進。</p>	

達成度 ◎：100%以上 ○：80%以上～100%未満 △：50%以上～80%未満 ×：50%未満
※ 目標値に対して

事業名	学校運営協議会と地域学校協働活動の推進事業
事業目的	学校運営協議会を軸に、地域と学校の連携を強化することにより、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成を図る。
事業目標	協議会委員をはじめとした保護者及び地域の理解・協力を得ることで、学校運営協議会、地域学校協働活動の円滑な運営を図る。
事業概要 (実施状況)	学校運営協議会、地域学校協働活動の円滑な運営のため、学校に対し、先進事例や熟議のあり方についての情報提供を行う。
評価項目①	学校運営協議会の設置・運営
評価指標	学校運営協議会の開催
指標取得先	各小中学校ごとの開催回数
目標値	各小中学校年2回以上
実績	各小中学校年2回以上、学校運営協議会を開催した。
達成度	◎
評価項目②	学校運営協議会において熟議の開催
評価指標	熟議の開催
指標取得先	各小中学校ごとの開催回数
目標値	各小中学校1回以上
実績	12校が熟議を開催した。昨年度より2校増えた。 ※ 今年度も「協議」については含めないこととした。
達成度	△
成果	① 各学校の事務局や地域コーディネーターが中心となり、各学校の特色ある活動を推進したり支援したりすることができた。 ② 学校や地域が抱える課題を明確にし、今後向かうべき方向性について確認するための熟議が実施された。
次年度の課題	① 学校運営協議会は各小中学校で2回以上安定して行うことができているが、欠席者も多い。欠席者が少ない中で会をもち、熟議等を行えるように日程調整する必要がある。 ② 年度当初に熟議の設定について説明したり、熟議のテーマについても情報提供したりして、各学校に位置付けること、マンネリ化しないように進めていくことが必要である。

協議第2号 令和7年度大船渡市地域学校協働本部事業の評価検証方針について

令和7年度大船渡市地域学校協働本部事業の評価検証方針について、大船渡市学校支援活動運営委員会設置要綱第2第1項の規定に基づき、意見を求めます。

令和7年3月14日

大船渡市学校支援活動運営委員会

委員長 高 橋 多鶴子

事業名	家庭教育学級		
事業目的	教育保育施設、保護者、地域住民、行政が連携して子どもの健全育成、家庭教育力の向上を図る。		
事業目標	① 子どもを取り巻く諸課題についての共通認識を持つ。 ② 課題解決に向けたスキルの向上を図る。		
事業概要	市内保育園・こども園・幼稚園児及び保護者を対象に家庭教育学級を開催する。		
評価項目①	教育保育施設・家庭・地域等と連携したコミュニケーションの促進		
評価指標	学習内容の満足度。 「大変良かった」「良かった」と答えた人の割合	1園あたりの前年比参加人数	
指標取得先	学習終了後のアンケート	実績	
目標値	80%以上	前年比同数以上 (令和6年度実績：49.2人)	
評価項目②	学校・家庭・地域等と連携した家庭教育にかかる知識の習得		
評価指標	学習内容の満足度。 「大変良かった」「良かった」と答えた人の割合	学習内容の家庭での 取組意欲。 「そう思う」「まあまあ そう思う」と答えた人の 割合	学習内容の理解度。 「概ね理解できた」「要点は理解 できた」と答えた人の割合
指標取得先	学習終了後のアンケート	学習終了後のアンケート	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上	80%以上	80%以上
事業名	家庭教育学級(英語スクール)「英語体験教室」		
事業目的	教育保育施設、保護者、行政が連携して子どもの健全育成、家庭教育力の向上を図る。		
事業目標	① 子どもの創造力を育む。 ② 子どもの自主性を育む。		
事業概要	未就学児を中心に、親子が楽しみながら英語を学ぶことによって、自己肯定感や自立心を高め社会を生き抜く力を育むと共に、次代を担う子どもたちの国際コミュニケーション能力の育成や、国際理解の促進に資するため実施するものである。		
評価項目①	創造力の向上		
評価指標	定員に対する参加率	教室に参加したことによる変化。 「新しくやりたいことが見つかった」「アイディアを考えたり、工夫することが楽しかった」「自分でできることがふえた」と回答した参加者の割合	
指標取得先	実績	学習終了後のアンケート	
目標値	80%以上	50%以上	
評価項目②	自主性の向上		
評価指標	学習意欲。 「自分から進んで取り組むことができた」「お子様は意欲的に学習に取り組むことができた」と回答した参加者、保護者の割合		
指標取得先	学習終了後のアンケート		
目標値	80%以上		

事業名	青少年体験学習	
事業目的	これからのまちづくりを支える多才な人材の育成と子供たちに多様な経験を積ませて青少年の健全育成に寄与する。	
事業目標	① 子どもの創造力を育む。 ② 子どもの自主性を育む。	
事業概要	夏季から冬季にかけて、小学生から中学3年生までを対象としたさまざまな分野における体験学習の機会を提供する。	
評価項目①	創造力の向上	
評価指標	定員に対する参加率	教室に参加したことによる変化。 「新しくやりたいことがみつかった」「自分でできることがふえた」「アイデアを考えたり、工夫することが楽しかった」と回答した参加者の割合
指標取得先	実績	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上	50%以上
評価項目②	自主性の向上	
評価指標	「自分から進んで取り組むことができた」「お子様は意欲的に学習に取り組むことができた」と回答した参加者、保護者の割合	
指標取得先	学習終了後のアンケート	
目標値	80%以上	
事業名	ふるさと教育講座	
事業目的	若者の郷土への誇りと愛着を醸成し、将来の地域を担う人材を育成するため、郷土の歴史、文化、自然及び産業などに関する講座を開設する。	
事業目標	① 若者の郷土への誇りと愛着の醸成を図る。 ② 地域を担う人材を育成する。	
事業概要	市内の中学生を対象に、郷土の歴史、文化、自然、産業及びその他適切と思われるものの講話の実施	
評価項目①	若者の郷土への誇りと愛着の醸成	
評価指標	「ふるさと教育講座を受講して大変良かった・良かった」、「地元のことを深く知ることができた・知ることができた」と回答した生徒の割合	
指標取得先	学習終了後のアンケート	
目標値	80%以上	
評価項目②	地域を担う人材育成	
評価指標	「自分の住む町や大船渡市の良いところを挙げることができる」、「大船渡市の良さを市外の人に説明することができる」と回答した生徒の割合	
指標取得先	学習終了後のアンケート	
目標値	50%以上	

事業名	スクールガード配置事業				
事業目的	登下校時の児童生徒の安全を確保するためのスクールガードに地域住民が参画し、地域全体で子どもたちを見守り育てる意識の向上を図る。				
事業目標	① スクールガードを配置することで、登下校時の児童生徒の安全を確保する。 ② 地域住民による参画で地域コミュニティ形成の一助とする。				
事業概要	① 市内小・中学校の通学路にスクールガードを配置し、登下校時の安全を確保する。各校の状況に応じ、引率型、巡回型及びスクールバス添乗型により実施する。 ② 地域住民をスクールガードとして登録し、通学路の危険個所の巡回や、登下校時の安全監視を行う。				
評価項目①	登下校時の児童生徒の安全確保				
評価指標	事故発生件数		声かけ事案発生件数		
指標取得先	年間実績		年間実績		
目標値	0件		0件		
評価項目②	地域住民による参画				
評価指標	配置人数	生きがいである・楽しみだと感じる割合	地域内交流拡大の割合	事業の認識・周知の割合	地域ぐるみでの取り組みに対する認識の拡大
指標取得先	年間実績	SGアンケート	SGアンケート	保護者アンケート	保護者アンケート
目標値	39人	75%	75%	80%	80%

事業名	学校支援事業				
事業目的	学校、家庭及び地域住民相互の連携・協働を推進するため、地域コーディネーター等を配置し、学校支援活動の推進を図る。				
事業目標	地域住民が、学校や関係機関と連携した学校支援活動を推進する。				
事業概要	地域コーディネーターを配置し、地域ボランティアによる学校支援を実施する。図書支援活動地域ボランティア研修会を実施する。				
評価項目①	地域コーディネーターの人材確保及び情報共有する機会の提供				
評価指標	学校支援活動を推進する地域コーディネーターを配置する		地域コーディネーターが各校での取組・課題について情報共有することができる交流会を開催する		
指標取得先	年間実績		年間実績		
目標値	14人		1回		
評価項目②	生涯学習の成果をいかした地域ボランティアの育成				
評価指標	図書支援を行う地域ボランティアの育成を図るための研修会を開催する		研修内容をボランティア活動に活用できると回答した人の割合		
指標取得先	参加者の割合		受講者アンケート		
目標値	75%		80%		

事業名	学校運営協議会と地域学校協働活動の推進事業
事業目的	学校運営協議会を軸に、地域と学校の連携を強化することにより、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成を図る。
事業目標	協議会委員をはじめとした保護者及び地域の理解・協力を得ることで、学校運営協議会、地域学校協働活動の円滑な運営を図る。
事業概要	学校運営協議会、地域学校協働活動の円滑な運営のため、学校に対し、事例や熟議のあり方についての情報提供を行う。
評価項目①	学校運営協議会の設置・運営
評価指標	学校運営協議会の開催
指標取得先	各小中学校ごとの開催回数
目標値	各小中学校年2回以上
評価項目②	学校運営協議会において熟議の開催
評価指標	熟議の開催
指標取得先	各小中学校ごとの開催回数
目標値	各小中学校1回以上